

受動喫煙とう蝕との関連

【背景】

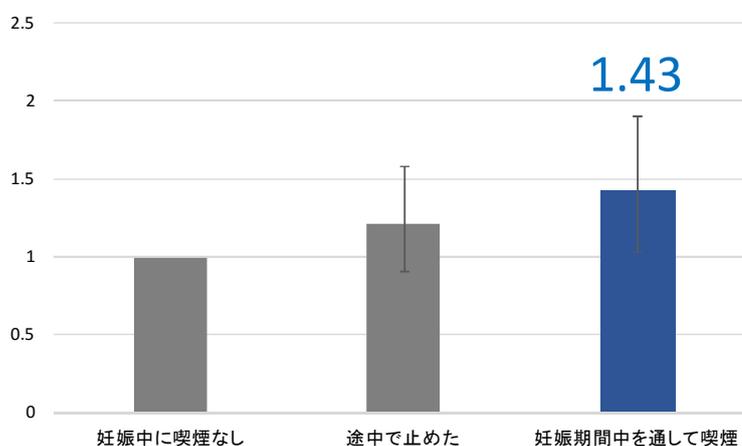
近年、子どものう蝕は減少してきているとはいえ、本邦では、未だ最も有症率の高い疾患の一つです。齲蝕発症には、環境要因、食事要因、生活習慣等、多くの要因が関わっています。今回、環境要因の中でも、受動喫煙に着目し、妊娠中の母親に喫煙、出生後の子の家庭内喫煙と3歳児のう蝕との関連について解析しました。

【方法】

調査に参加いただいた2109名のうち、今回の解析に使用する変数に欠損のない2015名の小児を解析対象者としました。3歳児健診の歯科健診結果は、母子健康手帳から質問調査票に転記頂くことで収集しました。その他の情報も質問調査票から得ました。性別、歯磨き頻度、フッ素の使用、間食頻度、両親の教育歴を交絡因子として補正しました。

【結果】

妊娠中に母親が喫煙していなかったグループに比較して、母親が妊娠中を通して喫煙していたグループでは、う蝕の有症率が約43%上昇していました。また、出生後、家庭内で受動喫煙があったグループでは、無かったグループに比較して、う蝕の有症率が25%上昇していました。これらは統計学的に有意な関連でした。



【結論】

妊娠中の母親の喫煙や、出生後の家庭内喫煙は、齲蝕と関連があるのかもしれませんが。

【出典】

Tanaka K, Miyake Y, Sasaki S. The effect of maternal smoking during pregnancy and postnatal household smoking on dental caries in young children. J Pediatr. 2009; 155: 410-5.